



“地域のことは地域で考えよう”

〒900-0013 那覇市牧志1丁目3番45号、3階 電話 (098) 869-8711

各位

2022年11月30日

株式会社 おきぎん 経済研究所

おきぎん県内景況・速報（2022年10月分）

◎ 県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで持ち直している。

☆ 個人消費：スーパー売上高は全店ベース、既存店ベース共に前年同月を上回る。

百貨店売上高は前年同月を下回る。

新車販売台数は前年同月を上回る。

中古車販売台数は前年同月を下回る。

☆ 建設関連：公共工事請負金額は前年同月を上回る。

生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

☆ 観光関連：入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。ホテル客室単価、宿泊収入(推計値)においても前年同月を上回る。

☆ 企業倒産：件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

※ お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

[担当]：新垣、中江、小嶺 [連絡先] 電話：098-869-8711 ファクシミリ：098-869-2200

現場主義とお客さまからの信頼

おきぎん県内景況・速報(2022年10月分)

◎2022年10月 おきぎん「カトリア」景況図



◎ 概況：県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで持ち直している。

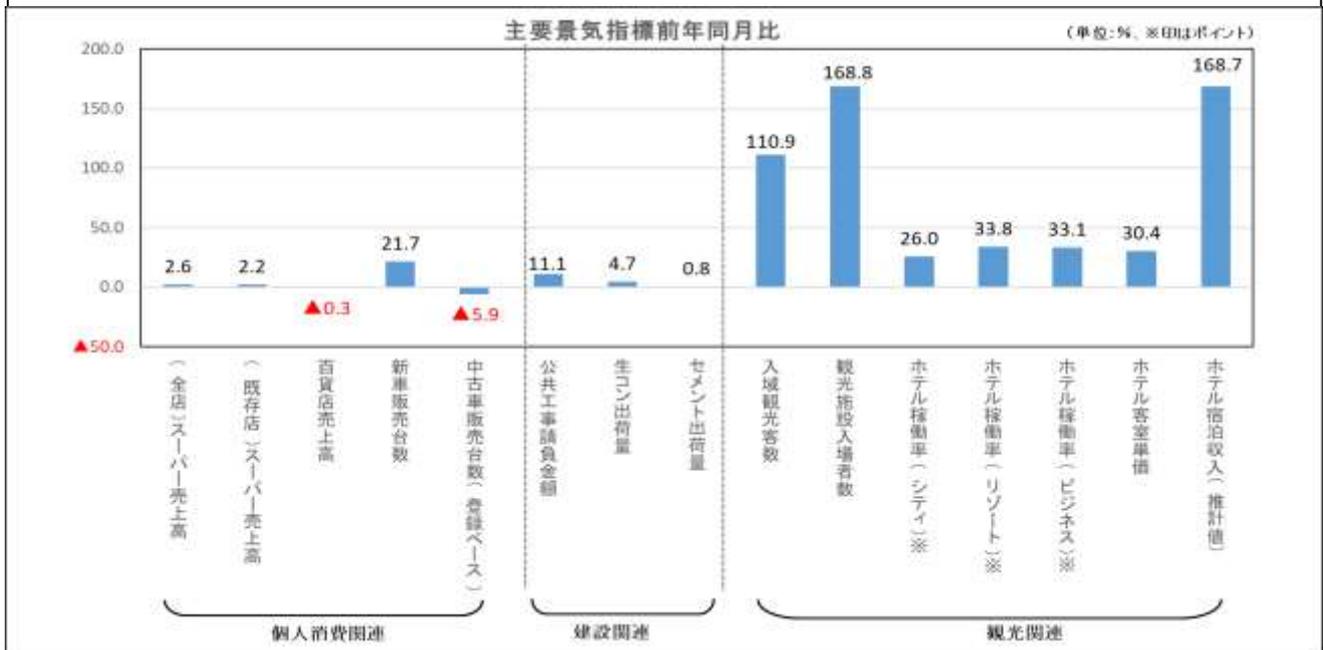
10月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベース共に前年同月上回りました。百貨店売上高は、前年同月を下回りました。耐久消費財である新車販売台数は前年同月上回り、中古車販売台数は前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は前年同月上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月上回りました。

観光関連では、入域観光客数は前年同月上回り、観光施設入場者数も前年同月上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてにおいて、前年同月上回りました。ホテル客室単価、宿泊収入(推計値)においても前年同月上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響や供給制限が緩和傾向にあることなどにより持ち直しています。観光関連は、全国旅行支援の実施などで持ち直しており、建設関連は、民間工事に持ち直しがみられるものの、弱い動きが続いています。よって、「県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで持ち直している」と上方修正しました。

(上方修正)



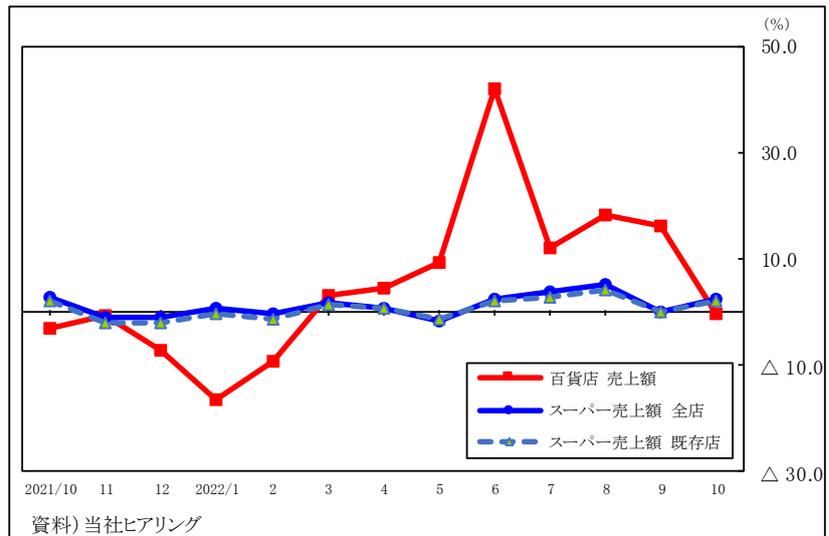


■個人消費：(ふつう)

① スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベース共に前年同月を上回る。百貨店売上高は、前年同月を下回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2021/10	2.9	2.3	△ 3.0
11	△ 1.0	△ 2.0	△ 0.5
12	△ 0.9	△ 1.9	△ 7.2
2022/1	0.7	△ 0.2	△ 16.3
2	△ 0.3	△ 1.2	△ 9.3
3	1.9	1.5	3.3
4	0.6	0.6	4.6
5	△ 1.5	△ 1.3	9.2
6	2.6	2.1	42.1
7	3.9	2.9	12.0
8	5.3	4.2	18.4
9	0.2	0.1	16.3
10	2.6	2.2	△ 0.3



注) 前年同月比

10月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比2.6%増)」は、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、「食料品(同3.3%増)」、「家庭用品(同2.5%増)」は前年の新型コロナウイルス感染症の影響緩和による来客数の増加や生鮮食品を中心とした物価高騰の影響などにより、前年同月を上回りました。「衣料品(同1.3%減)」は天候要因などにより前年同月を下回りました。

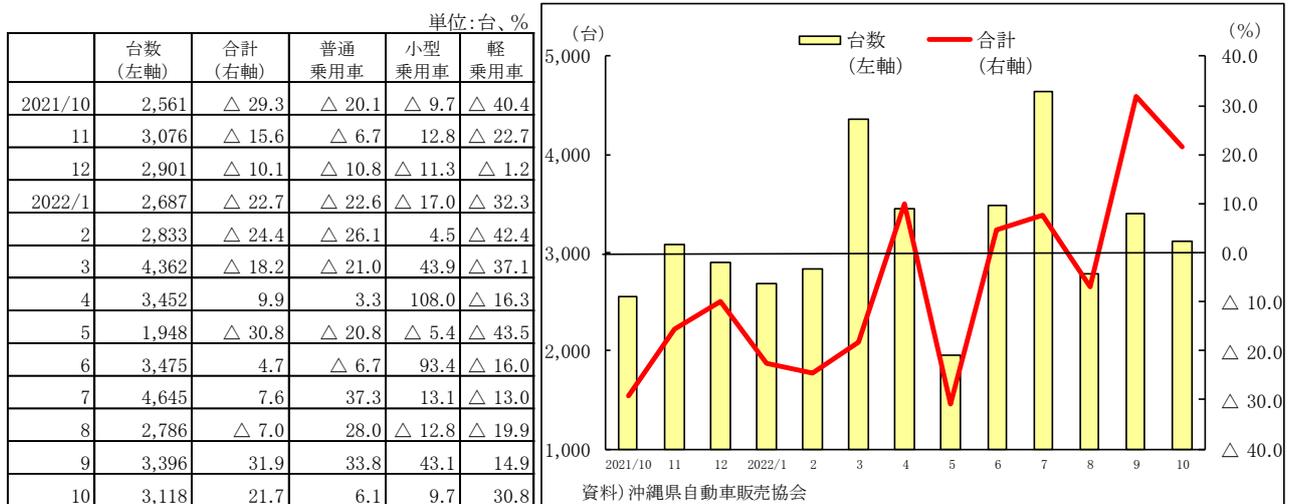
「既存店ベース(同2.2%増)」は、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、「食料品(同2.7%増)」、「家庭用品(同0.8%増)」は新型コロナウイルス感染症の影響緩和による来客数の増加や物価高騰の影響などにより前年同月を上回りました。「衣料品(同1.1%減)」は前年に比べ気温が高く推移したことにより冬物衣料の売れ行きが鈍かったことなどが要因となり、前年同月を下回りました。

(参考値)コロナ禍以前の2019年同月比では、7.7%増となりました。

百貨店売上高は、前年同月を下回りました(同0.3%減)。内訳をみると「衣料品(同8.5%減)」、「身廻品(同10.5%減)」、「家庭用品(同25.8%減)」は前年の大規模なポイント還元企画の反動などにより前年同月を下回りました。「食料品(同2.3%減)」は、システム更改に伴う売場の臨時休業や価格高騰の影響などにより前年同月を下回りました。「サービス(同354.7%増)」、「その他(同106.3%増)」は催事企画の好調などにより前年同月を上回りました。全体としては8ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

(参考値)コロナ禍以前の2019年同月比では、全体で25.6%減となりました。

② 新車販売台数…新車販売台数は、前年同月を上回る。



注) 前年同月比

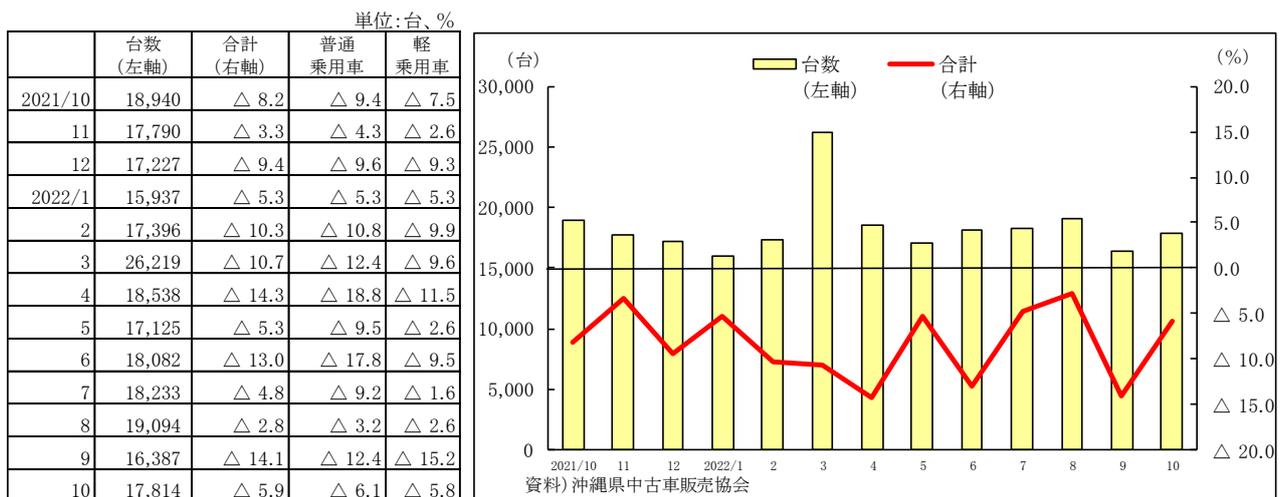
注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で3,118台(同21.7%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同6.1%増)」、「小型乗用車(同9.7%増)」、「軽乗用車(同30.8%増)」は供給制限の影響が改善しつつあることなどにより前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

(参考値)コロナ禍以前の2019年同月比では、全体で5.9%増となりました。車種別では、普通乗用車15.7%増、小型乗用車29.1%増、軽乗用車7.5%減となっています。

③ 中古車販売台数…中古車販売台数は前年同月を下回る。



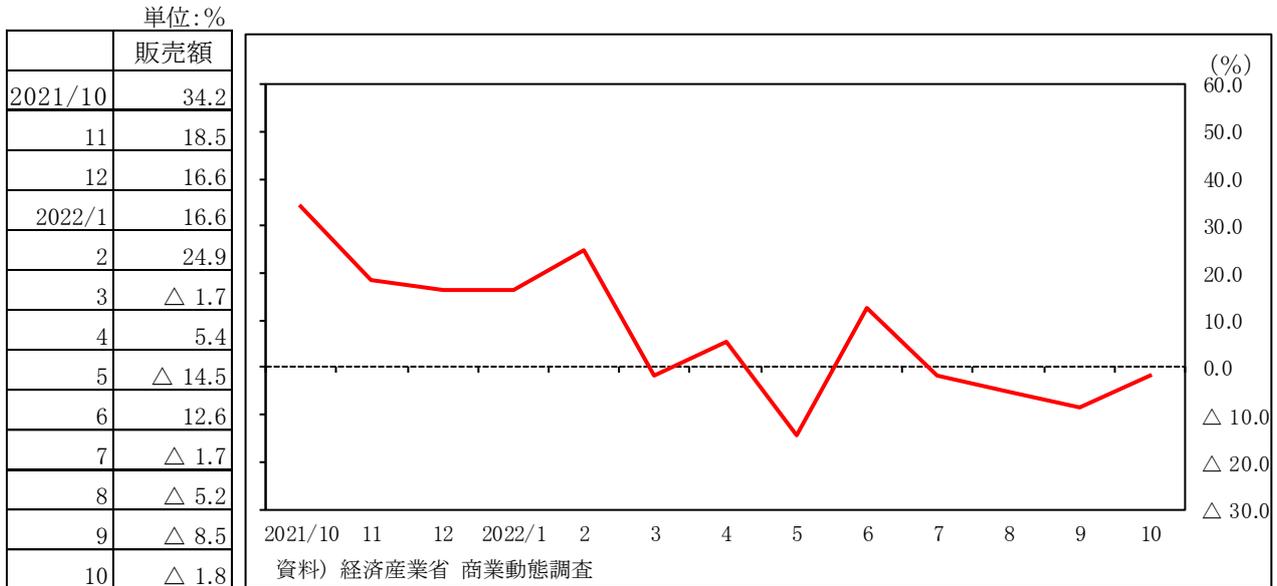
注) 前年同月比

注) 登録ベース

中古車販売台数(登録ベース)は、全体で17,814台(同5.9%減)となり、13ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「乗用車(同6.1%減)」、「軽自動車(同5.8%減)」共に市場の供給減少に伴う価格高騰などにより、前年同月を下回りました。

(参考値)コロナ禍以前の2019年同月比は全体で11.4%減となり、車種別では乗用車9.3%減、軽自動車12.7%減となりました。

④ 大型家電専門店販売額…販売額は前年同月を下回る。



注) 前年同月比

10月の大型家電専門店販売額は4ヵ月連続で前年同月を下回りました。

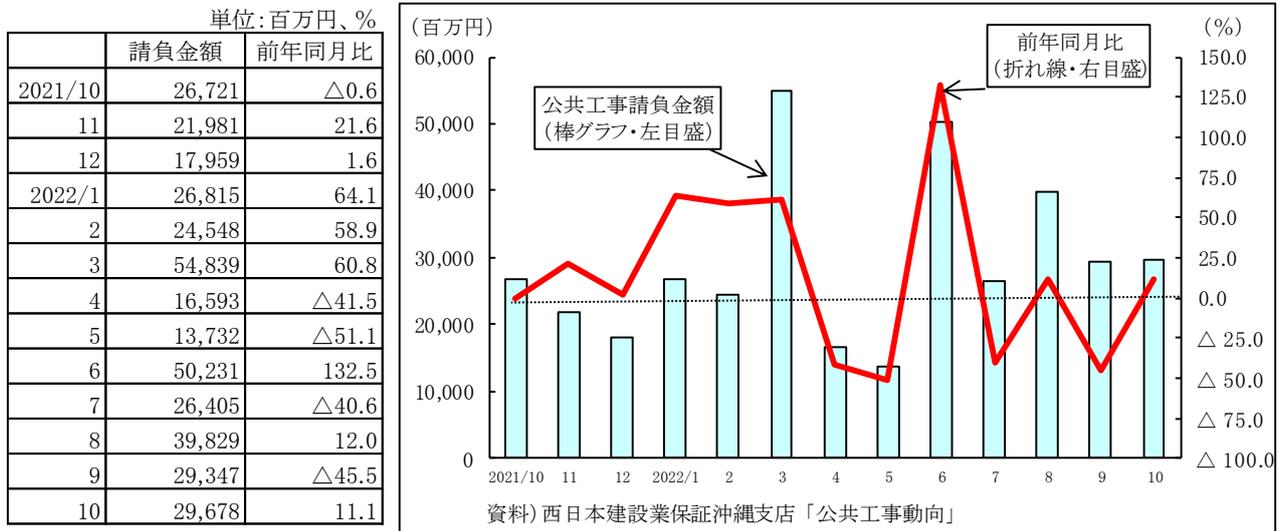
下回った要因として、客足の鈍さが継続していることなどが挙げられています。

※コメントについては商業動態調査を基に小売店へ弊社が独自にヒアリングを行ったものになります。

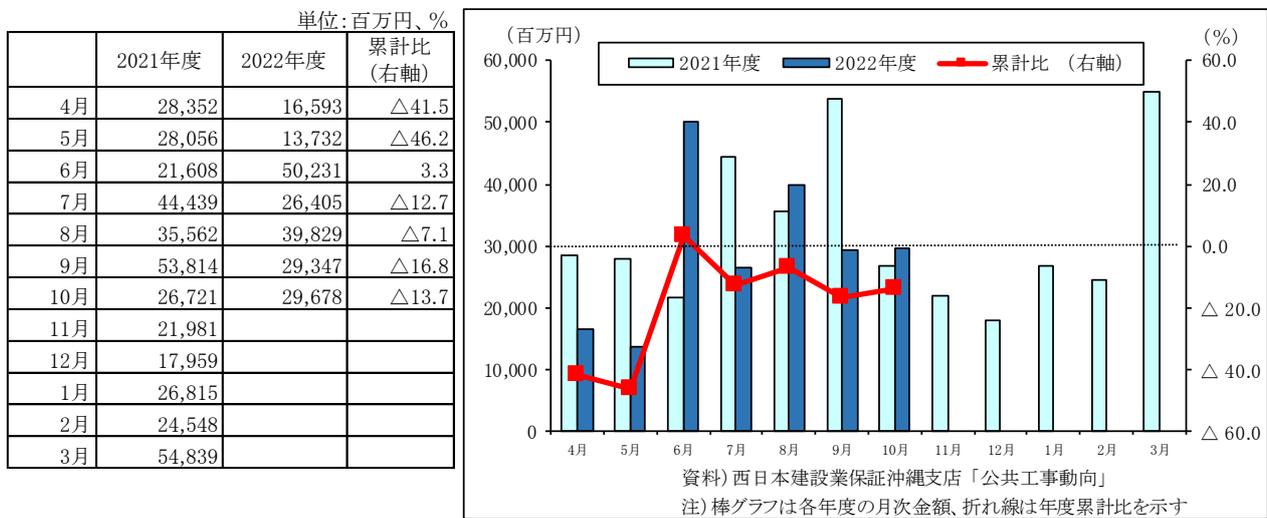


■建設関連： (ふつう)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。



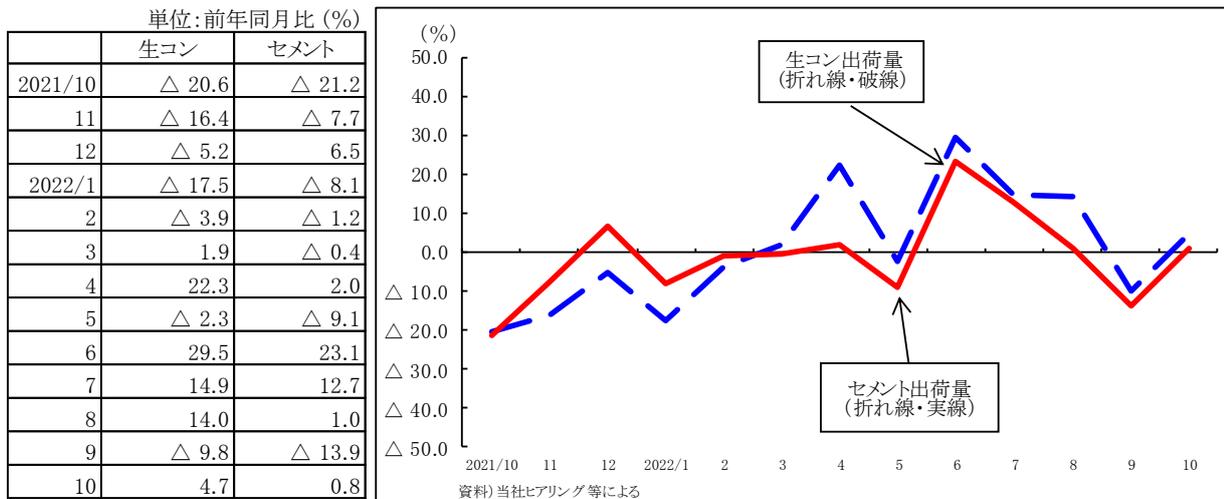
【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。



10月の公共工事請負金額は、前年同月比11.1%増の296億7,800万円となりました(2ヵ月ぶり増)。

発注者別でみると、「市町村(同29.8%増)」、「国(14.6%増)」、「独立行政法人等(同661.5%増)」は前年同月を上回りました。一方、「沖縄県(同28.8%減)」、「その他(同49.4%減)」は前年同月を下回りました。

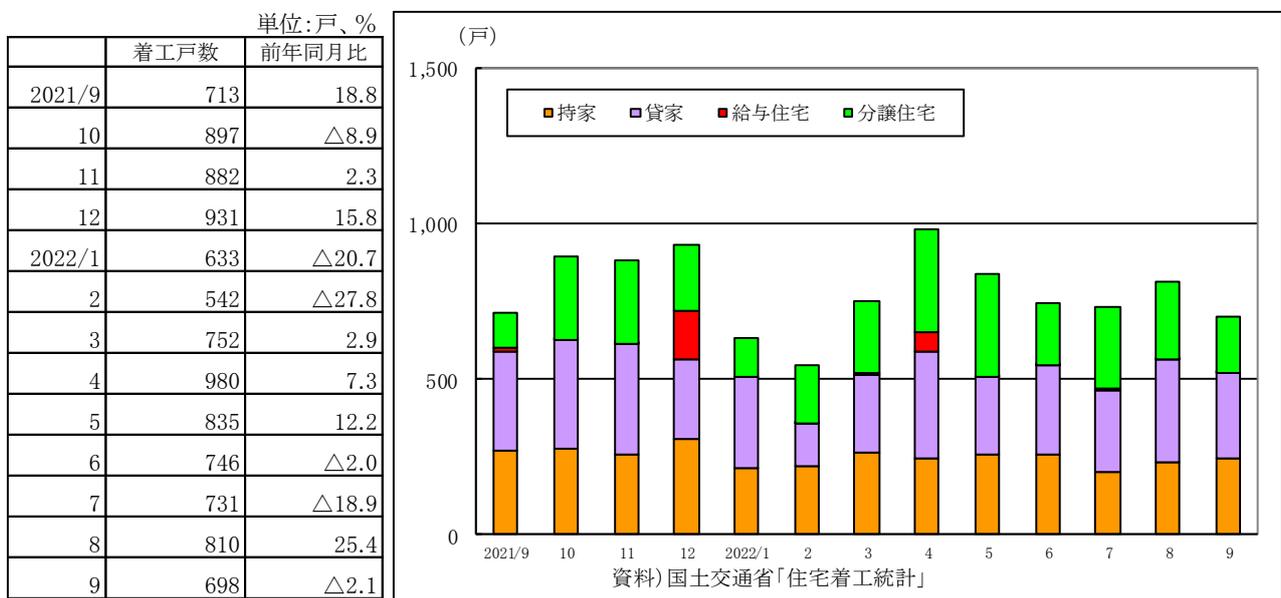
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。



(注) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

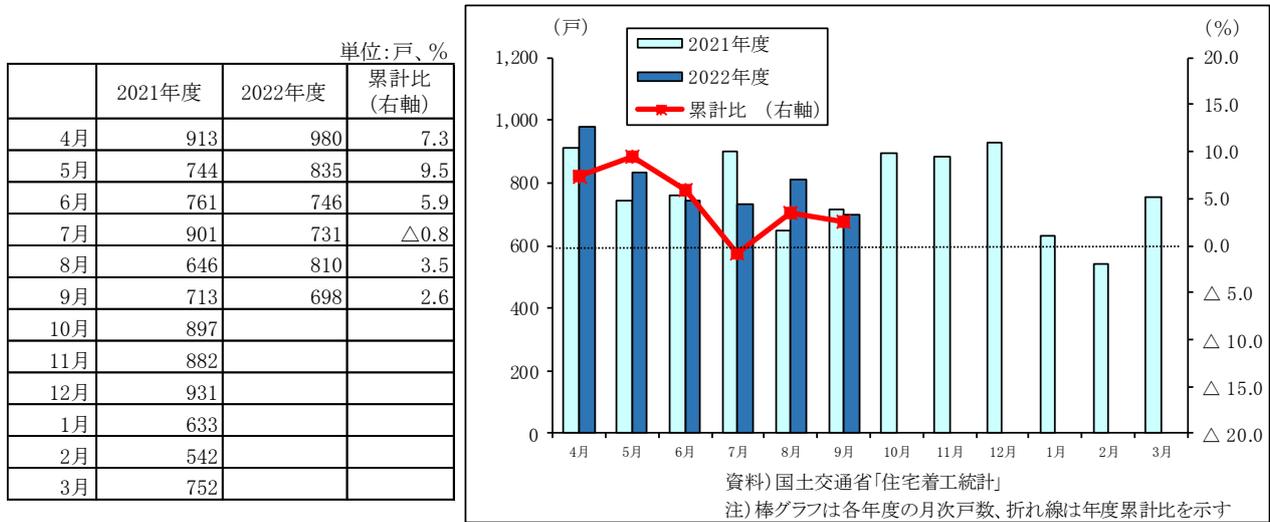
建設資材関連では、生コンの出荷量は 4.7%増と2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。内訳をみると、公共工事向けは石垣や中南部での出荷が増加したことなどから前年同月より 14.6%上回り、民間工事向けは宮古島や石垣での出荷が減少したことなどから前年同月より 0.6%下回りました。セメント出荷量は 0.8%増と2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

③【参考】住宅投資(9月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。



9月の新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比 2.1%減の 698 戸となり、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、「貸家(同 14.7%減)」、「持家(同 8.5%減)」、「給与住宅(90.0%減)」は前年同月を下回りました。一方、「分譲住宅(同 56.1%増)」は前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を上回る。

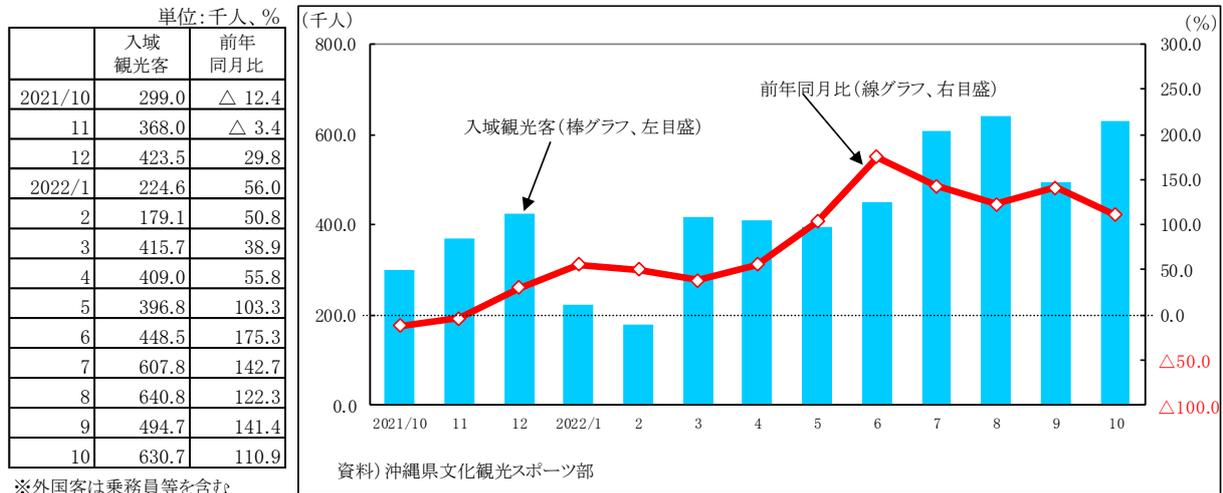


今年度累計値では、2.6%増となっています。



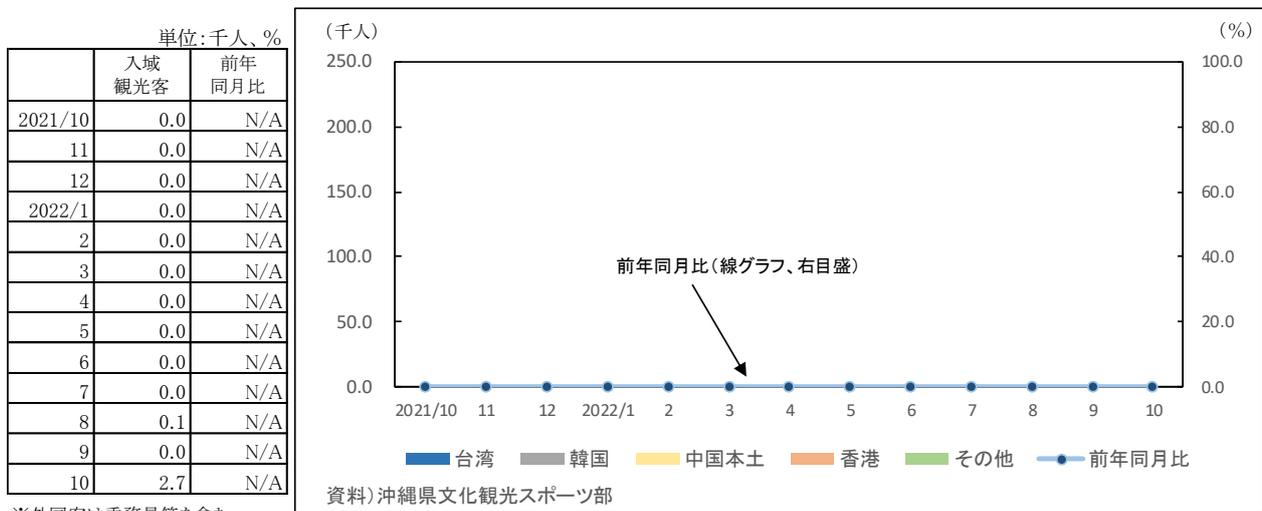
■観光関連： (やや悪い)

①入域観光客数（国内客・外国客の合計）・・・前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客入域観光客数・・・2,700 人の入域となる。



※外国客は乗務員等を含む

10月の入域観光客数は、全国旅行支援の実施や国内の各航空路線で全便運航となったことなどから、331,700人多い630,700人(前年同月比110.9%増)となり、11ヵ月連続で前年同月を上回りました。

2019年同月比(国内客・外国客の合計)では、220,600人減少(25.9%減)と下回っています。

2019年同月比(国内客)では、7,200人増加(1.2%増)となっています。

外国客入域観光客数は、台湾と香港の一部路線で運行が開始されたことにより、2,700人の入域がありました。今後、入国制限措置の緩和による運航再開が予定されていることから、外国客数の回復が期待されています。

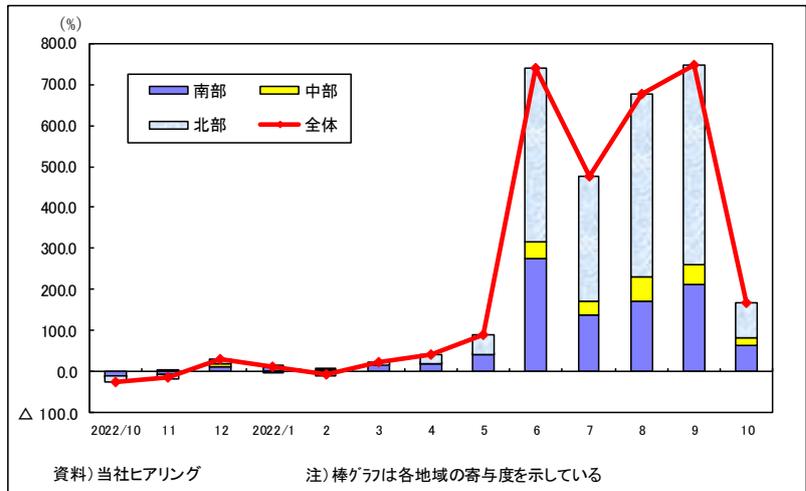
②観光施設入場者数・・・前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2022/10	△ 23.5	△ 28.1	△ 18.4	△22.1
11	△ 14.3	△ 16.0	40.0	△19.9
12	30.0	37.9	46.7	20.9
2022/1	11.6	42.8	△ 15.5	6.7
2	△ 6.6	23.7	10.0	△15.7
3	24.9	60.7	11.3	13.1
4	43.0	61.6	12.2	38.9
5	90.1	153.6	16.8	77.5
6	738.2	1,132.3	472.1	629.3
7	475.9	460.8	479.3	482.7
8	675.0	373.7	519.5	1,039.8
9	747.4	510.6	559.3	978.8
10	168.8	237.0	179.0	137.6

※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



10月の**観光施設入場者数**は、全体では168.8%増となり、8ヵ月連続で前年同月を上回りました。地域別では、北部の観光施設は137.6%増、南部は237.0%増、中部は179.0%増となりました。

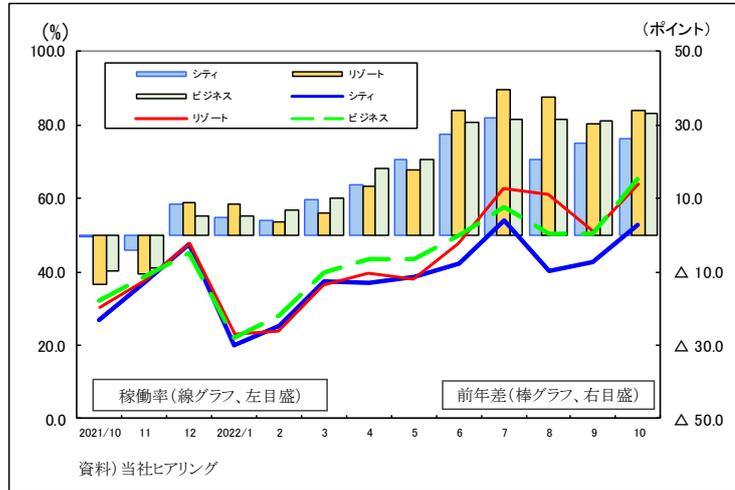
(参考)2019年同月比では、全体で45.4%の減少となります。内訳では北部の観光施設は36.9%減少、南部は55.4%減少、中部は44.7%の減少となっています。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてにおいて前年同月を上回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2021/10	26.8	30.4	32.2	△ 0.2	△ 13.5	△ 9.7
11	37.1	37.5	38.7	△ 4.1	△ 10.8	△ 9.1
12	47.3	47.5	45.1	8.4	9.0	5.2
2022/1	20.1	23.2	22.0	4.9	8.3	5.1
2	25.1	24.0	27.9	4.1	3.4	6.7
3	37.3	36.2	40.0	9.5	6.0	10.2
4	36.8	39.8	43.5	13.8	13.4	18.0
5	38.6	37.9	43.3	20.7	17.6	20.6
6	42.1	47.5	49.9	27.6	33.9	30.6
7	53.9	62.5	57.5	31.8	39.5	31.6
8	40.2	61.1	50.3	20.4	37.6	31.6
9	42.7	51.1	50.2	25.1	30.3	31.0
10	52.8	64.0	65.3	26.0	33.8	33.1

注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



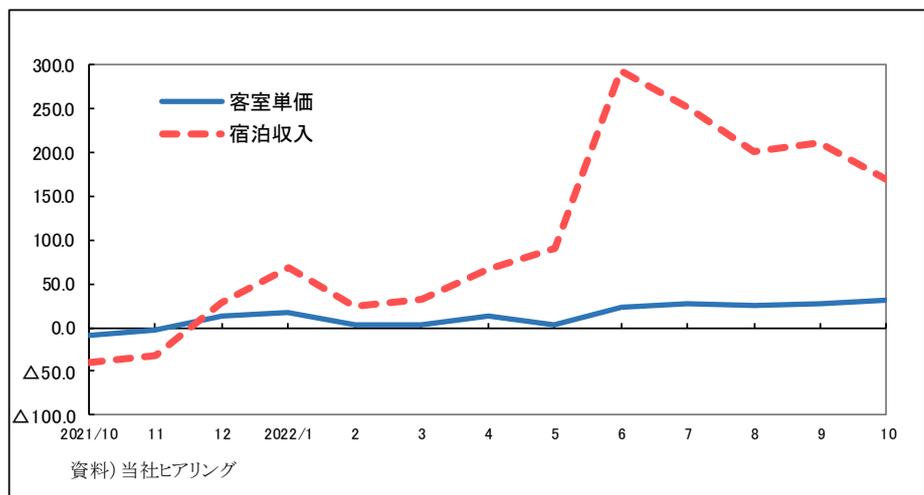
県内ホテル稼働率は、シティホテルは前年同月比26.0ポイント増加、リゾートホテルは33.8ポイント増加、ビジネスホテルは33.1ポイント増加しました。新型コロナウイルスの感染抑制や全国旅行支援の実施などから、前年同月を上回りました。

(参考) 2019年同月比では、シティホテルは20.8ポイントの減少、リゾートホテルは12.4ポイントの減少、ビジネスホテルは4.7ポイントの減少となっています。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。

単位: %

	客室単価	宿泊収入
2021/10	△9.1	△40.7
11	△3.8	△33.0
12	12.5	29.1
2022/1	16.9	69.4
2	2.9	24.1
3	2.3	31.6
4	14.1	66.2
5	3.4	91.2
6	24.1	293.8
7	27.7	251.1
8	24.7	201.3
9	26.5	211.9
10	30.4	168.7



※対象施設数: 26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は30.4%増と11ヵ月連続で前年同月を上回り、**宿泊収入**においても168.7%増と11ヵ月連続で前年同月を上回りました。

(参考) 2019年同月比では、客室単価は4.9%の上昇、客室収入は9.0%の減少となっています。

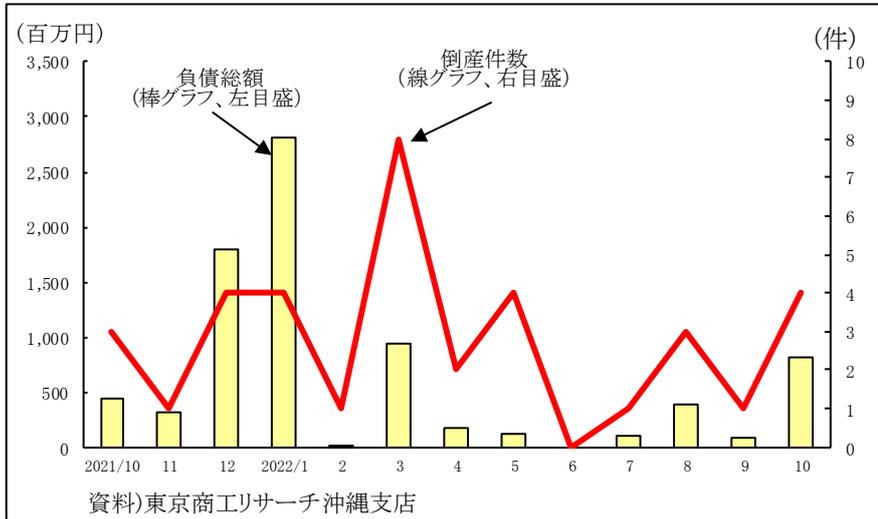


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2021/10	434	3
11	320	1
12	1,803	4
2022/1	2,819	4
2	10	1
3	935	8
4	170	2
5	120	4
6	0	0
7	94	1
8	381	3
9	83	1
10	816	4



注) 負債総額1,000万円以上を集計対象

10月の企業倒産件数は4件(うち大口倒産は2件)となり、前年同月より33.3%上回りました。

負債総額は8億1,600万円となり、前年同月より88.0%上回りました。

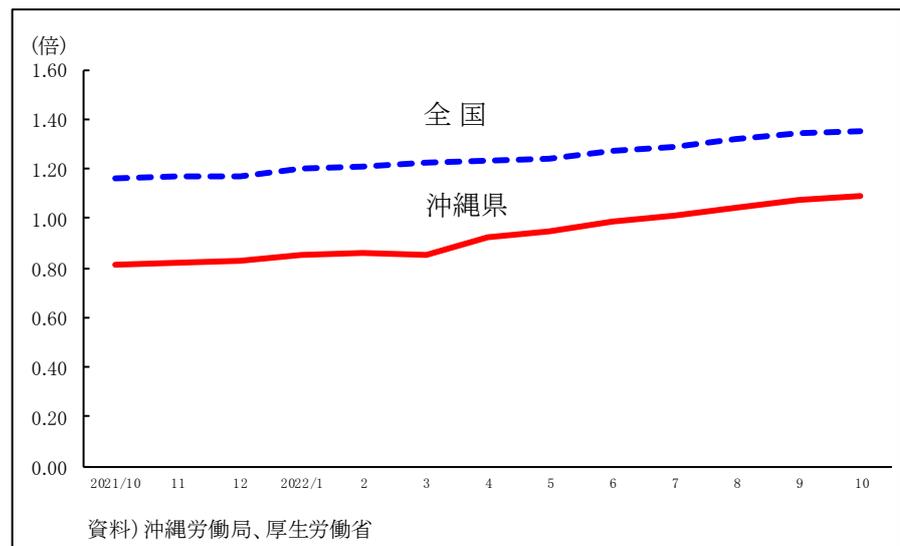


■雇用関連： (ふつう)

①有効求人倍率(10月)・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2021/10	0.81	1.16
11	0.82	1.17
12	0.83	1.17
2022/1	0.85	1.20
2	0.86	1.21
3	0.85	1.22
4	0.92	1.23
5	0.95	1.24
6	0.99	1.27
7	1.01	1.29
8	1.04	1.32
9	1.07	1.34
10	1.09	1.35



注) 季節調整済

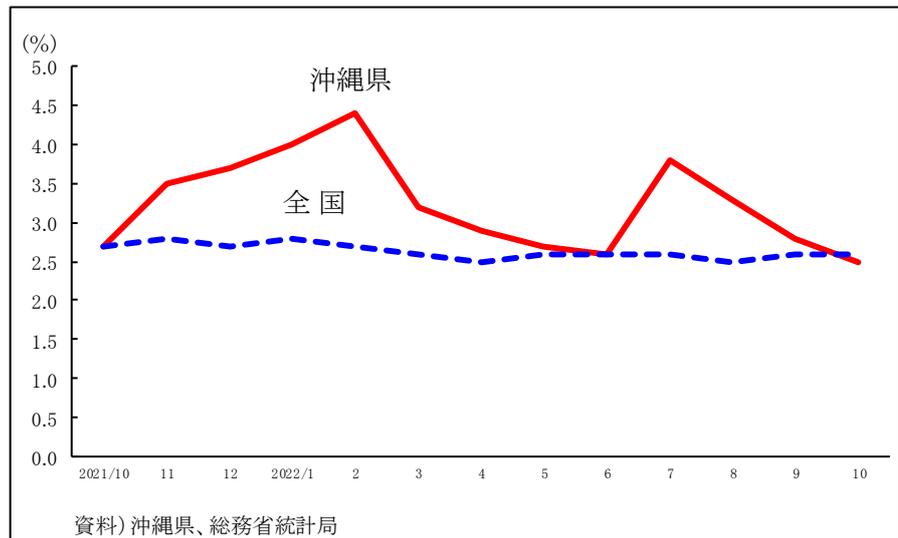
注) 沖縄県の数値は県内を就業地とする「就業地別」求人数を用いて算出

10月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)が前月比0.4%増の33,016人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.3%減の30,268人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.09倍と、前月より0.02ポイント上昇となりました。

②完全失業率(10月)・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。

単位:%

	沖縄県	全国
2021/10	2.7	2.7
11	3.5	2.8
12	3.7	2.7
2022/1	4.0	2.8
2	4.4	2.7
3	3.2	2.6
4	2.9	2.5
5	2.7	2.6
6	2.6	2.6
7	3.8	2.6
8	3.3	2.5
9	2.8	2.6
10	2.5	2.6



注) 季節調整済

10月の完全失業率(季節調整値)は、2.5%となり前月より0.3ポイント低下しました。